

# 経営学専攻大学院 内部進学説明会

---

博士課程前期  
2027年度入試



**YNU** 横浜国立大学  
YOKOHAMA National University  
Initiative for Global Arts & Sciences

# 説明会概要

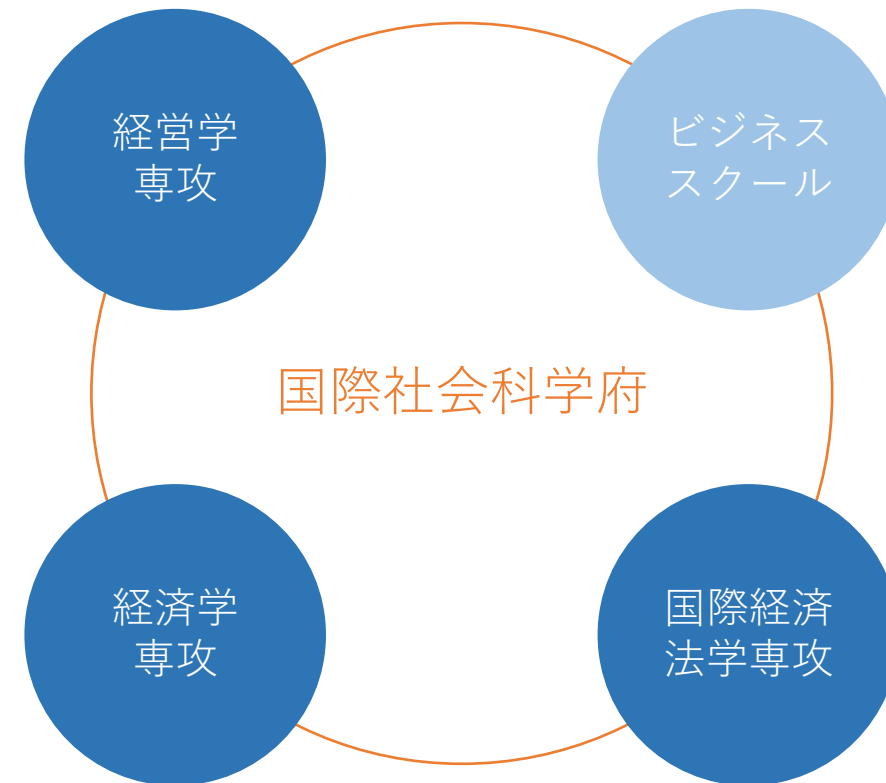
国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

1. 国際社会科学府博士課程前期
2. 経営学専攻
3. カリキュラム
4. 入学試験
5. 学部・修士5年一貫教育プログラム
6. 修了生の進路

# 1. 国際社会科学府博士課程前期

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

国際社会科学府は、博士課程前期・後期一貫型の、経済学、経営学、国際経済法学の3専攻から成り立っています。ビジネススクールや専攻横断教育プログラム、英語による教育プログラムも含め、国際性ある実践的教育を強化し、グローバル新時代に求められる人材を養成します。



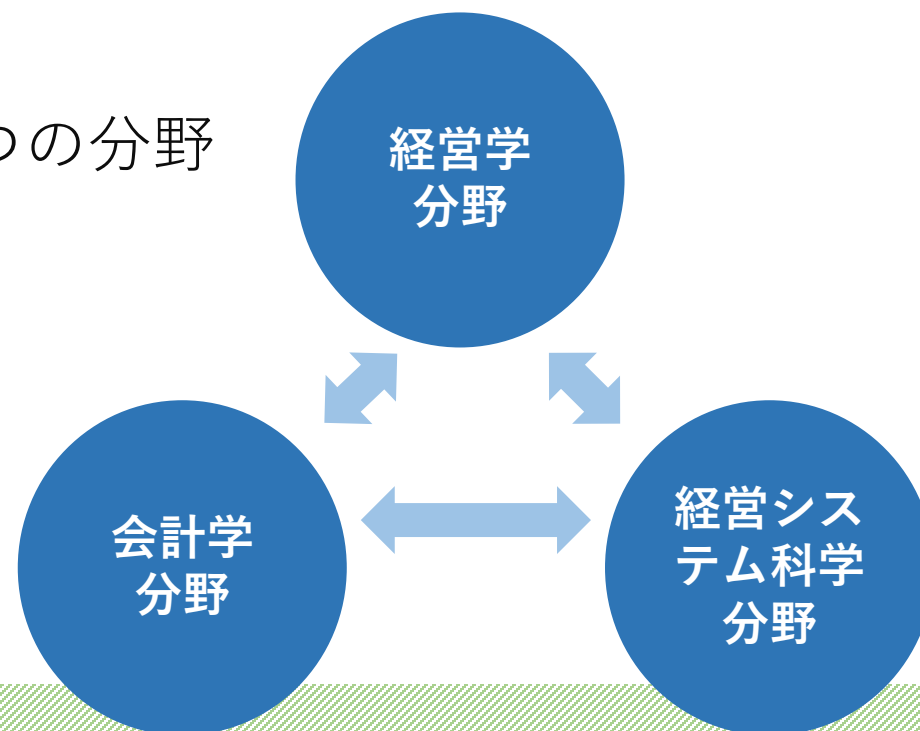
## 2. 経営学専攻

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

### ■目的

グローバル・レベルで通用する経営学とその関連領域に精通し、ビジネスシーンでの問題解決能力を有する、国際的に活躍できる実践的スペシャリストの養成

### ■経営学専攻における3つの分野



# 3-1. カリキュラム | 授業科目

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

## ■ コア科目

戦略経営、組織マネジメント、国際経営、財務会計、管理会計、経営科学、計量分析

## ■ 経営学分野

産業分析、人的資源管理、経営史、比較経営、比較社会文化、企業と社会、定性研究法

グローバル・イノベーション・マネジメント、サステナビリティ経営、アントレプレナーシップ

## ■ 会計学分野

簿記原理、会計監査、公会計、税務会計、原価会計、生態会計、国際会計

## ■ 経営システム科学分野

オペレーションズ・マネジメント、経営シミュレーション、経営財務、マーケティング

社会データサイエンス、経営数学

## ■ 学府共通科目

Thesis Writing、Presentation and Discussion Skills

## 3-2. カリキュラム | 修了要件

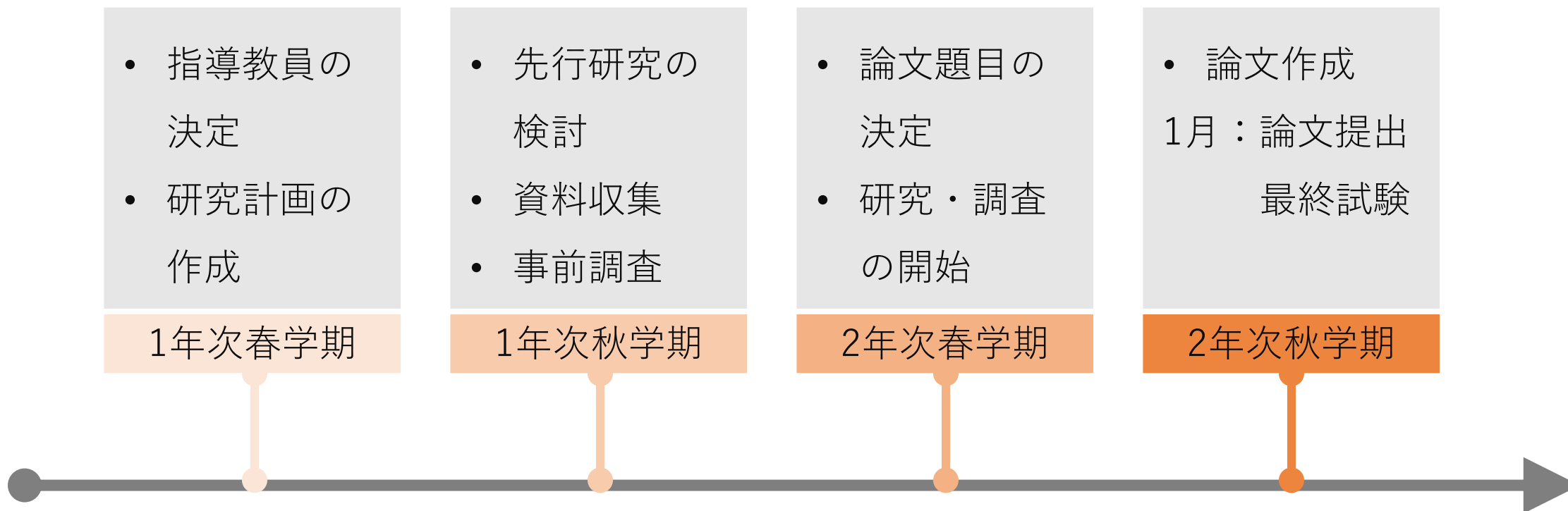
国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

- 原則 2 年以上の在学（5 年一貫プログラム生は 1 年間の在学で修了可能）
- 必要な単位数
  - 講義（特論）：12 科目 24 単位以上
    - ・コア科目：2 科目 4 単位以上
    - ・その他の科目：ビジネススクールの科目などを一部履修することが可能
  - 研究指導（演習）：8 単位
- GPA（Grade Point Average）が 2.0 以上
- 修士論文提出 + 修士論文最終試験

$$\text{GPA} = \frac{\sum (\text{GP} \times \text{単位数})}{\text{履修登録単位数}}$$

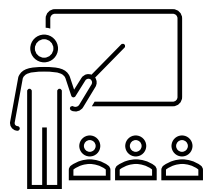
## 3-3. カリキュラム | 修士論文作成のプロセス

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期



# 4-1. 入学試験 | 経営学専攻博士課程前期

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期



YNU 在学生向け

一般入試  
9月・2月

定員 30名

- 第1次選抜（筆記）  
論文試験  
（6題のうち2題選択）
- 第2次選抜  
口述試験

社会人  
入試  
9月・2月

定員 若干名

- 第1次選抜（書類審査）
- 第2次選抜  
口述試験（実務経験を重視）

推薦入試  
6月・2月

定員 若干名

- 書類審査
- 口述試験

内部進学  
試験  
9月・2月

定員 若干名

- 書類審査
- 口述試験

TOEFL-iBTもしくはTOEIC L&Rの成績証明書の提出が必要

## 4-2. 入学試験 | 博士課程前期 内部進学試験

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

### ■ 学部（学士課程）から博士課程前期（修士課程）への**内部進学試験**

- ・ 4年次の夏頃

### ■ ・ 出願資格：

**本学学士課程（全学部対象）**に出願時点で在籍しており、**翌年3月卒業見込み**の者

3年次終了時点（2月実施の試験に出願の際は4年次春学期終了時）の

**累積GPAが3.1以上**であり、かつ同時点での**修得単位数**が原則として**100単位以上**の者

**指導教員が推薦**する者

- ・ 口述試験

卒業論文執筆状況報告書（卒業研究実施状況報告書）

前期課程（修士課程）での研究計画

## 4-3. 入学試験 | コンプリヘンシブ・エグザミネーション

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

### ■博士課程前期（修士課程）から博士課程後期（博士課程）への**内部進学試験**

- 2年次秋学期初め頃（例年10月実施）
- 口述試験
  - 修士論文の中間報告
  - 後期課程（博士課程）での研究計画
- 例年2～3名程度が進学

# 5-1. 学部・修士5年一貫教育プログラム

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

## ■学部・修士5年一貫教育プログラムとは？

- ・通常6年（学部4年、修士2年）かかるところを、**最短5年間での修了**を可能にするプログラム
- ・**学士（経営学）**と**修士（経営学）**の双方の学位を取得することができる。

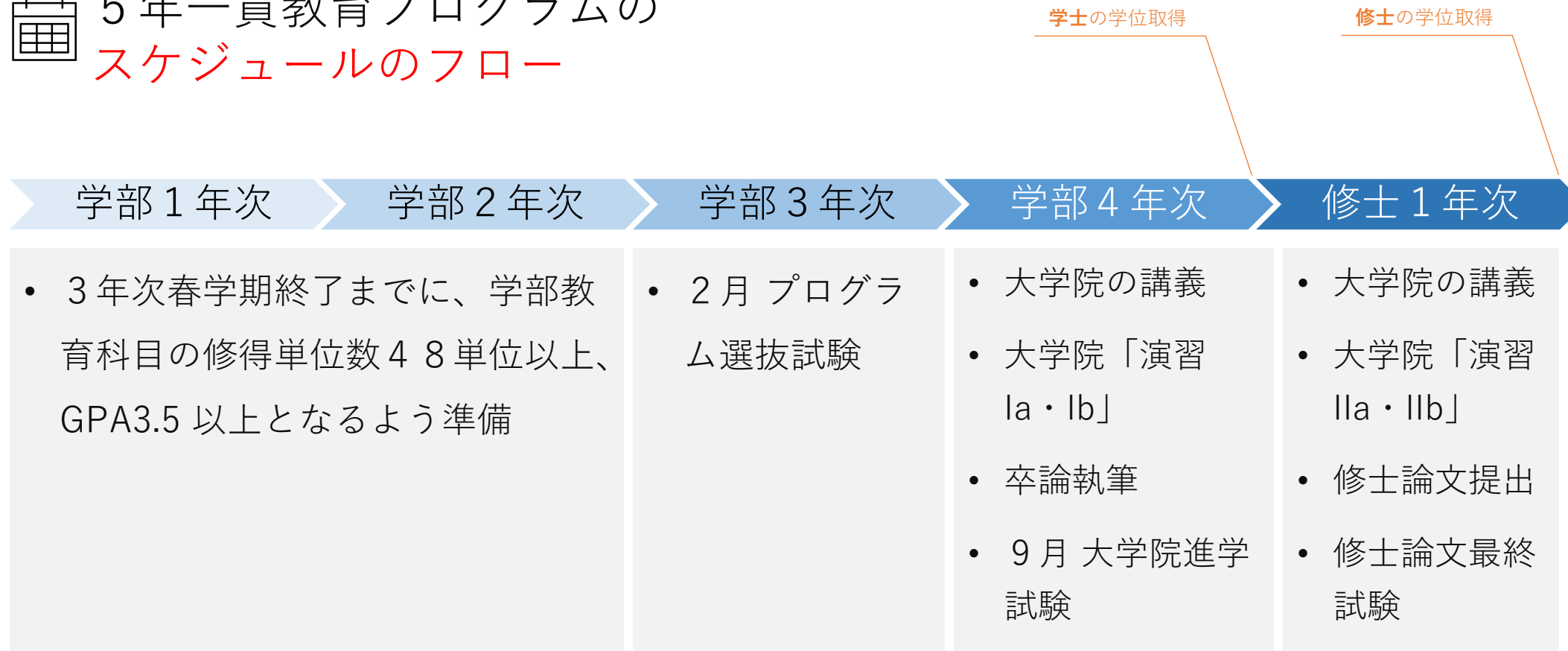
## ■このプログラムのイメージ

- ・学部4年次：上限26単位まで大学院の科目を受講
- ・この単位は大学院進学時に認定される（ただし学部の卒業要件に含めなかった場合）
- ・大学院の「演習Ⅰa・b」も履修
- ・前期（修士）1年次：  
大学院の講義＋「演習Ⅱa・b」（合計32単位以上修得）＋修士論文提出＋修士論文最終試験合格

## 5-2. 学部・修士5年一貫教育プログラム

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

### 📅 5年一貫教育プログラムの スケジュールのフロー



## 5-3. 学部・修士5年一貫教育プログラム

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期



### 5年一貫教育プログラムへの参加方法

	学部3年次を対象に 5年一貫教育プログラム選抜試験	学部4年次を対象に大学院 内部進学試験
時期	3年次の2月ころ	4年次の9月ころ
選抜人数	若干名	若干名
出願要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学経営学部の3年次であること</li> <li>・ 学部教育科目の修得単位数が48単位以上（3年次春学期終了時）</li> <li>・ GPA 3.5以上（3年次春学期終了時）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本学学士課程に出願時点で在籍しており3月卒業見込みの者</li> <li>・ 3年次終了時点の累積GPAが3.1以上であり、かつ同時点での修得単位数が原則として100単位以上の者</li> <li>・ 指導教員が推薦する者</li> </ul>
出願方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年次春学期までの成績証明書</li> <li>・ 研究計画書</li> <li>・ 指導教員等の推薦状</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出願時点での成績証明書</li> <li>・ 卒業論文執筆状況報告書（卒業研究実施状況報告書）</li> <li>・ 研究計画書</li> <li>・ 指導教員の推薦書</li> </ul>
選抜方法	書類選考と口述試験による総合評価	書類選考と口述試験による総合評価

## 6-1. 修了生の進路 | 過去3年間

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

- 太陽有限責任監査法人
- 株式会社オカムラ
- 株式会社マクロミル
- サイボウズ株式会社
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 有限責任あずさ監査法人
- アクセンチュア株式会社
- ルイ・ヴィトンジャパン株式会社
- LKジャパン株式会社
- 富士ソフト株式会社
- NTTロジスコ株式会社
- アイテックジャパン株式会社
- ルネサスエレクトロニクス株式会社
- 株式会社アイネット
- 三菱自動車工業
- 藤田観光株式会社
- 株式会社バイセルテクノロジーズ
- 株式会社ファミリーコーポレーション

- 株式会社Speee
- 富士通株式会社
- オムロン株式会社
- 大和ハウス工業株式会社
- 明治安田システム・テクノロジー株式会社
- 日本無線株式会社
- 株式会社IDOM
- 株式会社ジェイ・クリエーション
- コロンブスメディア不動産会社
- Michael Page Japan
- JBCCホールディングス株式会社
- シンプレクス・ホールディングス株式会社
- Liebherr China limited Company
- セガサミーホールディングス株式会社
- NOK株式会社

- 株式会社カプコン
- 海上保安庁
- MGCウッドケム株式会社
- 株式会社TOKYO BASE
- オリンパス株式会社
- 株式会社日立ビルシステム
- AKKODiSコンサルティング株式会社
- ASTEMO株式会社
- アビームコンサルティング株式会社
- 博士課程後期へ進学 など

## 6-3. 修了生の進路 | 企業へ就職した修了生の意見①

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期



株式会社野村総合研究所

(2023年3月修了者、高橋研究室出身)

- 業務内容：社内経理業務等
- 学部卒業者との処遇等の違い
  - ・ 月給は学部卒より1万円～2万円高い。
  - ・ 初の昇格のタイミングが早いため基本給・賞与が上がるタイミングも早い。
- 就職関連
  - ・ 文系院卒は不利という話を聞いており不安だったがそのようなことは全くなかった。
  - ・ 論理的思考力は大学院で鍛えられ、就活ではそこを評価してもらえたと感じている。
  - ・ 大学院の研究は就活のアピールにもつながる（計画性、問題意識、課題解決力）。
  - ・ 文系院卒は珍しいため興味を持ってもらえる。ただし大学院への進学理由、研究の内容は明確に答えられるようにすべき。
  - ・ 自分の専門性を客観的に証明するために資格は持っておいた方がよい。

## 6-3. 修了生の進路 | 企業へ就職した修了生の意見②

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期



NOK株式会社

(2025年3月修了者、木村研究室出身)

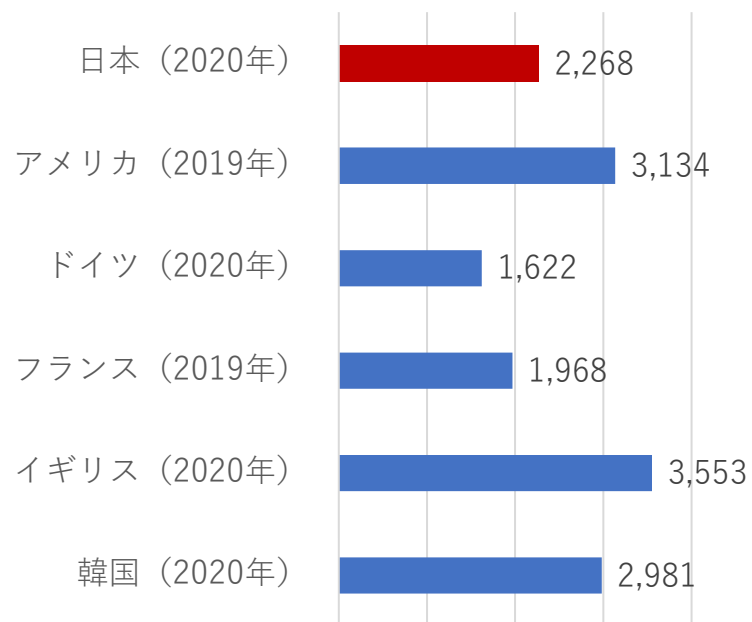
- 業務内容：グループの子会社・関連会社債権債務管理、外国送金、売掛金回収、手形・電子記録債権等の管理業務
- 学部卒業者との処遇等の違い
  - ・ 給料面：院卒は初任給が高く、基本的に学部卒より1~2年上位の等級からスタートする。
  - ・ 配属面：大学院修了者は、研究を通じて培った専門性を前提とした配属がされやすく、希望部署への配属可能性が相対的に高い。
  - ・ 業務への適応力：大学院における研究活動を通じて、データ収集・分析、課題特定、報告といった一連のプロセスを経験するため、実務においても業務遂行および業務改善がスムーズにでき、人事評価にもつながりやすい。
- 就職関連
  - ・ 自己分析：企業選択にあたっては、自身がどのような業務に携わりたいか、またグローバル・国内いずれの環境で働きたいか等を明確にする必要がある。大学院での研究活動を通じて、自身の関心領域や強みが具体化されている点は大きな強みである。
  - ・ 専門性の訴求と柔軟性：大学院で培った専門性や分析力を軸に、自身がどのように企業へ貢献できるかを具体的に示すことが重要である。一方で、企業のニーズに応じて役割や業務に柔軟に対応できる姿勢も併せてアピールする必要がある。
  - ・ 資格：語学力や専門分野に関連する資格を取得しておくことは、就職活動において自身の強みを示す有効なアピールポイントとなる。

# 人口100万人あたりの学位取得者数の国際比較（人文・社会科学）

学士号

(人/100万人)

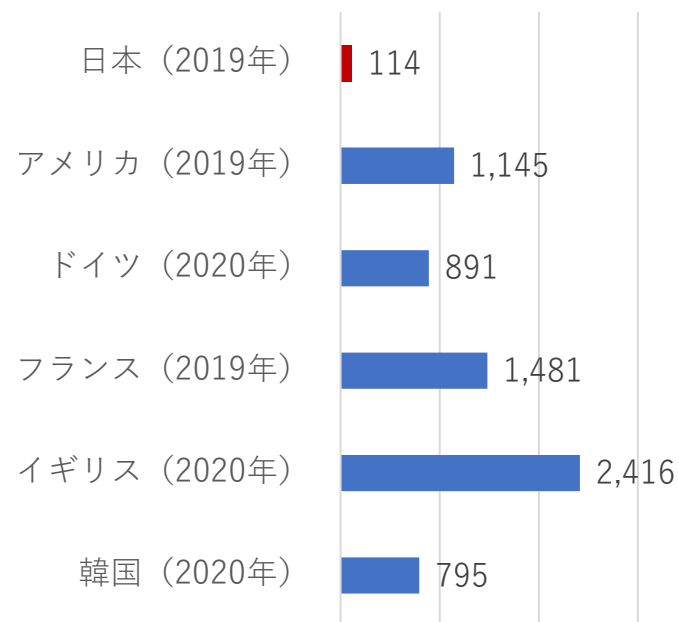
0 1,000 2,000 3,000 4,000



修士号

(人/100万人)

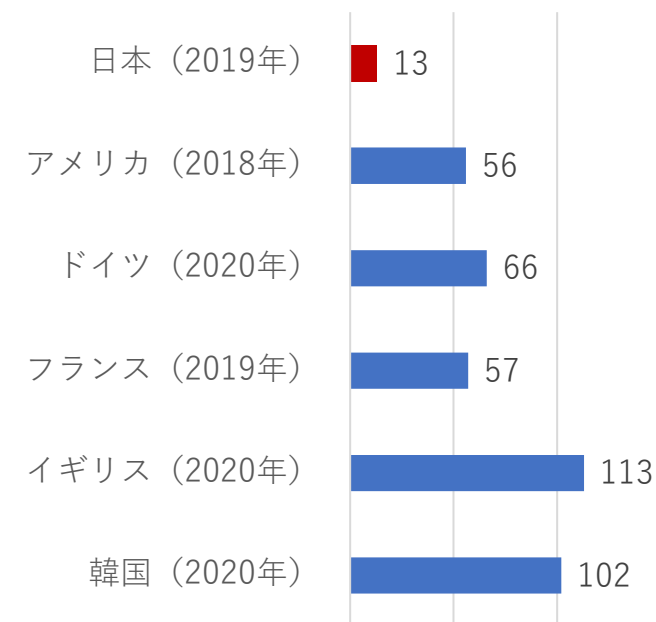
0 1,000 2,000 3,000



博士号

(人/100万人)

0 50 100 150



(出典)文部科学省 科学技術・学術政策研究所、「科学技術指標2022」を基に、横浜国立大学経営学部入試・広報委員会が加工・作成。

おわりに

国際社会科学府経営学専攻博士課程前期

是非、本学経営学専攻の博士課程前期への進学も  
選択肢のひとつとしてお考えください！



お問い合わせ

横浜国立大学 社会科学系事務部 大学院学務係

電話 045-339-3684 E-mail [int.gakumu-all@ynu.ac.jp](mailto:int.gakumu-all@ynu.ac.jp)

URL <https://www.b.ynu.ac.jp/index.html>

募集要項はこちら

